

Re-fresh & Maintenance

お客様の住まいが、いつまでも心地よく寛げる場所である事が、私たちの願いです。「R&M」では、そんなリフレッシュ&メンテナンスのご提案をさせていただきます。

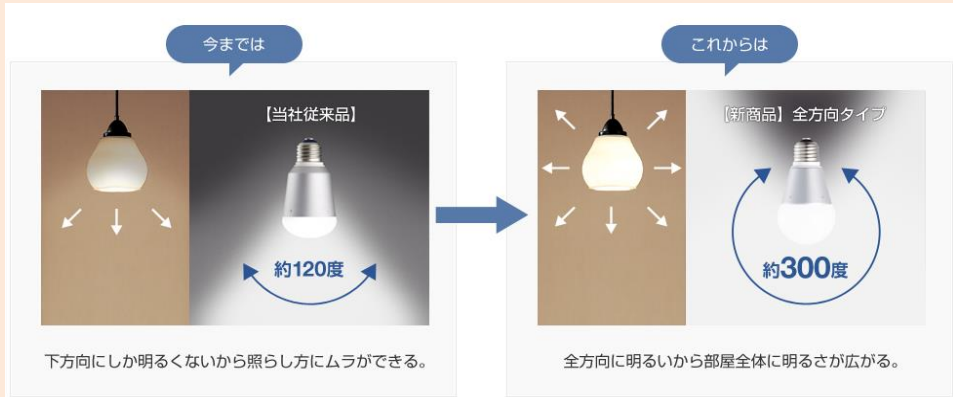
◎ メンテ「あかりのリフレッシュ」

今年の冬は厳しい寒さと不安定な天気が続きましたが、最近はややく温かい日差しにほっとするひとときもあり、少しずつ春の予感を感じさせてくれます。リフレッシュ工事も良い季節になってきたせいか、スタッフの動きも慌ただしくなってきました。外回りが中心のリフレッシュ工事ですが「どうせなら今回まとめて」と、内装のリフレッシュのご要望もよく伺います。今回は、中でもご希望の多い「照明器具の交換」についてご紹介しましょう。

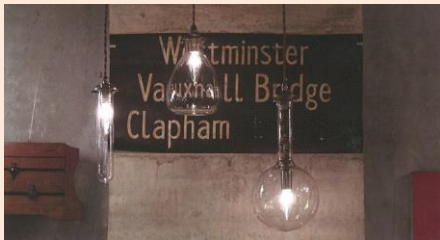
～ 今どき照明器具事情 / 本格的にLEDの時代へ～

照明器具といえば「節電・電球の長寿命」が今や世界共通のテーマ。

日本ではLED電球の普及が目覚ましく、従来の白熱灯と同じ雰囲気ながら柔らかい光を演出し、しかも従来機器にも使えるタイプも出てきており、種類もとても充実してきました。



従来の白熱球やシャンデリア球の印象を損ねない、クリアタイプの製品も。アンティークな器具にも使いやすくなりました。



～ 新しい器具へのリニューアルのお勧め～

今ある器具にLED電球をつければ、宣伝通りの効果が得られるかと言えば、そうとも限りません。古い器具ですと、電気系統が劣化しているため、LED電球に変えた事で故障したり、逆にLED電球の寿命を縮めてしまうという場合もあります。



ダウンライトもLED球内蔵型に。白熱球と変わらない柔らかい光の演出や、調光器にも対応できる商品ができました。



このようなデザイン照明器具も、最近の物はLED球に対応できる製品が多くなりました。

～ LED電球、ここにご注意を！～

当方は電球だけ変えてみよう、と、ホームセンター等に行くと、その種類の多さに戸惑ってしまうことも。

LED電球を購入するときには、以下の点にご注意ください。

【LED電球を利用する場合のご注意】

- ◎ 口金のサイズをあわせる (E17・E26 といった数字が書かれています)
 - ◎ 電球そのもののサイズを確認 (LED電球の場合、多少大きめの場合があります)
 - ◎ ワット数を確認 (電球のW数にあうるルメンの物を選んでください)
 - ◎ 条件にあった仕様を選ぶ
 - ・電球を完全にカバーするシェードの機器には「密閉型対応」のものを。
 - ・調光スイッチが付いている機器には「調光対応」のものを。調光スイッチの交換も必要になります。
 - ・ダウンライトには「断熱施工対応」*のものを。
- *箇所によっては通常タイプで良い場合もあります。

ワット数とルーメンの比較

区分	白熱電球	電球形蛍光灯	LED電球 E26口	LED電球 E17口
	W形	W形	全光束(ルーメン)	
明るさ	100W形	25W形	1520lm	1430lm
	60W形	15W形	810lm	760lm
	50W形	—	640lm	600lm
	40W形	10W形	485lm	440lm
暗	25W形	—	—	230lm

上記は、箱に必ず記載されていますので、ご購入前にはしっかりとご確認ください。また、ご自宅の機器がどれに該当するか、どの電球が適合するのかわからない場合などは、当社で

◎ メンテナンスのお役立ち情報「メンテのツボ」

メンテナンスのスタッフから、大切なお家を守る為のポイントをお伝えします。

今回のテーマ:

シロアリは定期点検で早期発見を!

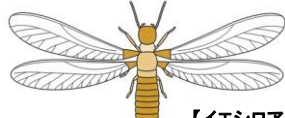
この時期になると「羽アリが出てきた! シロアリが心配だから、早く点検を!」というご連絡が多くなります。確かに、4月頃からシロアリの活動は活発化し、巣の分化などで羽アリが発生する事も多いのですが実際には季節を問わず、木材を少しずつ蝕んでいるのです。

特に愛知県は「ヤマトシロアリ」「イエシロアリ」といった、タイプの違うシロアリが生息する地域です。気づかない内に家の土台を食い荒らし、ほうっておくと甚大な被害になりかねません。



【ヤマトシロアリ】

体長: 約10mm
体色: 茶色がかった黒色
群飛時期: 4, 5月の雨上がり
加害部分: 地上から近い部分
※ゴールデンウィーク前後に多くみられる



【イエシロアリ】

体長: 約12~15mm
体色: 黄色がかった茶色
群飛時期: 6, 7月の夕方から夜間
加害部分: 地上から屋根裏まで
※海岸近くの地域に生息している

知らない間に家の土台を食い荒らされて、気づいたら大変なことに・・・。そうならない様に、私達は定期的なシロアリ点検を強くお勧めしています。



コーナー部分の縦の筋が蟻の通り道(蟻道)です。



外観からは気づかなかったデッキ廻り。幕板を剥がしてビックリ!!

【Dr.KOBA からのひとこと】

防蟻処理の薬剤の効能はおおよそ5年、工法によるシロアリ被害保証がついている物件も新築から10年。シロアリの被害は知らない間にゆっくりと進みます。2年に1回程度、専門業者による床下までしっかりとした点検を行い「早期発見・早期対策」を行うことが、被害を最小限に食い止めるための、最も有効な方法です。この機会に、ぜひ当社にご相談ください。



◎ 社長コラム「親の家・自分の家・子供の家」

～「世代を超えた家づくり」を目指す中で、わたしたちが考えること～

New!

少子高齢化が進むなか、自分たちの家だけを考えていけば良い時代から、「親の家」と「子供の家」を一緒に考えていく事が必要とされる時代になってきました。

現実に当社のお客様のお宅でも、様々なケースが出てきており、いろいろなお相談をお受けしております。

この問題は一律に正解があるわけではなくそれぞれの宅で多様な解決をしていくことが求められます。

これから具体的な事例をご紹介していきますが、皆様と一緒にこの問題を考えていきたいと思ひます。

まず最初に、「親の家」を考えてみましょう。



「親の家」には「自分の親」と配偶者の、つまり「義理の親」の家があります。

それぞれ面倒を見てくれる方がいらっしゃる場合は問題ありませんが、将来自分たちが面倒を見ることになる場合には、今からどうすべきか考えておかなければなりません。

家の事だけでなく、介護を含めて「誰が親の面倒を見るのか」という問題も含まれます。現在はご健在でも、将来その家をどうしていくのか、面倒は誰が見るのか、方針を決めておくと思ひます。

次回はもう少し詳しく「親の家」のことをお伝えします。

◎ 30年目に向けて・・・

当社もこの3月で創立30年目に突入致しました。初期のお客様はそろそろ「世代交代」の時期を迎えていらっしゃることもあつてか、去年あたりから、お子様に今の家をお譲りするための「リフレッシュ・リノベーション工事」のご用命を続けて頂いております。お子様が住み慣れた家に愛着を感じ、そのまま新しい家族で住み継いでくださる・・・これは本当に理想的な例ですが、それ以外にもいろいろな「住み継ぐ」形があります。そこには介護・相続・・・その他いろいろ避けられない問題も生じてきます。そんな問題と一緒に考えながら、家づくりだけではなく「住まい」全般に関わる事のお手伝いできればという思ひから、当社社長の黒川が、今回からコラム連載を始めました。誰にでもいつかはやって来る「世代交代」の時期をスムーズに乗り切れるヒントになれば幸いです。

R&Mでは、これからもお客様のお役に立つ情報をお知らせしてまいります。



どんな工事でも、まずは当社までお気軽にご相談下さい。
お問い合わせは・・・カスタマーホットライン 0120-498-894